

# 教育実習Ⅶ（幼）の報告

広島文教女子大学人間科学部

初等教育学科 准教授 牧

亮 太

## 1 はじめに

幼稚園教諭一種免許状を取得しようとする学生を対象とした「教育実習Ⅶ（幼）」は、本学初等教育学科幼児教育コースに所属する学生が初めて保育の現場に触れる授業である。その目的は、幼稚園教育の実際に触れて保育を理解すること、教職への意欲を高めることである。

## 2 実施のスケジュール

項目	時期	主な内容
オリエンテーション	4月	・本実習の意義・目的・心構え等を確認する。 ・本実習の流れ、実習①～③の目的、実習の手続き等を確認する。
実習①	4～5月	【事前学修】課題の確認をする。 【実習】幼児教育の実態を知ることが目的とした観察実習を行う。 【事後学修】幼稚園の1日を確認する。興味をもった事例にタイトルをつけ、整理する。エピソード記述の書き方を学修する。
実習②	5～6月	【事前学修】エピソード記述を読み、他者の視点を知る。目標を設定し、日誌の書き方を学修する。 【実習】設定した目標を中心とした観察および参加実習を行う。 【事後学修】他者のエピソードをもとに、他者とは異なる視点からの考察を考えてみる。日誌を書く上での要点を整理する。
実習③	6～7月	【事前学修】実習②での気づきをもとに目標を設定する。お礼状の書き方等を確認する。 【実習】設定した目標を中心とした観察および参加実習を行う。 【事後学修】グループでエピソードを1つ選び、討議を行い、報告会用の資料を作成する。
報告会	7月	・事例をもとにして、実習③での気づきを発表する。質疑応答を通して、気づき・学びを深める。
まとめ	8月	・報告会での学びを確認し、授業全体のふりかえりを行う。

## 3 活動の概要

### （1）各実習の概要

段階的に学びを深めていくために、実習ごとにねらいを設定した。実習①では、幼稚園における幼児の姿を知ること、幼児の様子を観察するなかで生じる思考・感情に自覚的になり記述することの2点、実習②では子どもの気持ちを推測しながら事例を記述すること、事例をもとにグループ討議を行

い、自分たちなりの結論を導くことの2点、実習③では、自分たちが導いた結論を具体的事実や省察に基づきながら他者に論理的に説明することの1点であった。

## (2) 教育実習Ⅶを通して学んだこと（学生の報告書より抜粋）

- ・子どもは自分の興味のあることに対してとことん自分のペースで取り組んでいく姿を多く見ました。（中略）まず自分がしたい、興味があるものに挑戦する時や上手くできない時でも再度取り組む姿を見て、できないことができるようになるまでの過程が凄いと感じました。興味を示すものは人によりけりだが、友達がしているのを見たりただ見ていて面白そうなどといった理由できっかけは同じなのかなあと感じました。
- ・この実習を通して同じ年齢でも子どもによって成長の仕方は様々なのだなということを改めて感じた。保育者や実習生が促したことを難なくこなす子もいれば、時間がかかる子や手助けがないと進めることが難しい子もいる。だが、それはただ成長に差があるだけではなくその子が育ってきた環境やその日の前後の出来事など様々なことが重なって子どもたちの成長に大きな影響を与えているのだなと感じた。周りと比べるのではなくその子自身をきちんと見てあげることで成長を感じることができ、その子の成長ができるようその子に合った対応を考えていくことができるとわかった。また、1人にすることでできる子、みんなに注目されることでできる子などそれぞれのペースや考え方があり、それらを見ることで子どもながらも強い意志や自分を貫く姿をみることができ子どもについて以前より理解できることが増えたと思う。
- ・3回の観察実習の中で、今何をすればいいのか、どこまですればいいのか分からずその場に立ち尽くしてしまうことが多くあった。保育者に何をすればいいのか聞きたくても保育者が忙しそうにしており、迷惑になってはいけないという思いから聞くことが出来なかった。指示を待つのではなく自分から聞きにいかなければ何も始まらないことは分かってはいたのだがあと一歩が踏み出せなかった。しかし、保育者に「今は勉強している途中なのだから分からないことがあって当然。質問することもチャレンジ」という言葉を頂き、自分の気持ちや考え、聞きたいことを自分の口で表して相手に伝えることが大切だと気づいた。また、小さなことでも一つ一つ解決していくことで大きな結果として自分に返ってくると考えた。次の実習では積極的な自分になれるよう今回の教育実習Ⅶで培った力を生かしていきたい。
- ・今後の課題については、ボランティアに積極的に参加し子どもたちと触れ合うことを今後の課題にしていきたいと思います。私はこの観察実習で一番大変だったのは、子どもたちとどう話をすればいいのかなどや、どう対応していかないといけないかなどが分からなかったので、積極的に参加して子どもたちと活動できるようにしていき、自分から子どもたちに話しかけられるようにしていきたいと思います。

## 4 成果と課題

各実習後のグループワークを、昨年度から3～4名の少人数で実施するように変更したが、グループによる進度に差があること、学修成果の共有が十分ではないことが昨年度の反省点として挙げられた。今年度は教員が巡回しながら各グループの進捗状況を確認したり、グループワーク後に全体でまとめをする時間を確保したりすることで、昨年度の課題は改善することができた。また「報告会」に関しては、授業の1コマを3年生の報告会参加に充てることで、具体的なイメージを持ちやすくなったものの、実際の発表・質疑応答では課題が残ったままになってしまった。引き続き「報告会」を充実させるための工夫を考えていく必要がある。